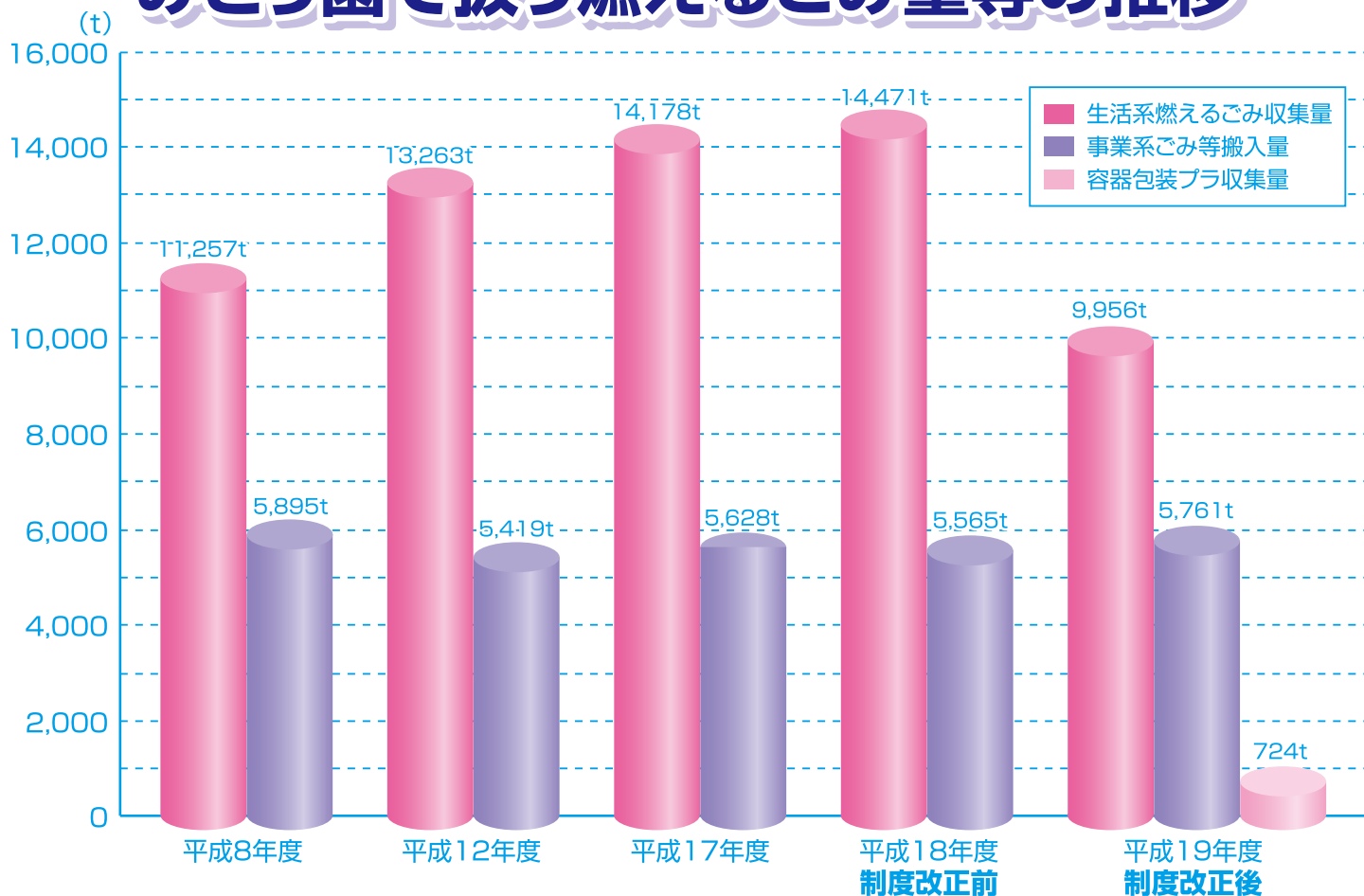




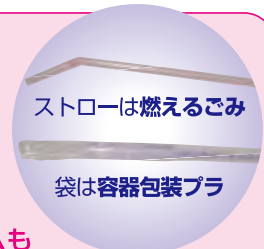
=ごみ減量20%大作戦= 1年を経過して
さらなる減量をめざしましょう。

「ごみ減量20%大作戦」を展開し、1年が経過しました。
あらたな「容器包装プラ」の分別や指定袋（有料化）でのごみの持ち出しに、
みなさんのごみ意識は高まり、ステーションに持ち出される燃えるごみの量は大きく減りました。
制度改正前1年間の収集量と比較すると、約30%減量しています。今まで燃えるごみ扱いだった
容器包装プラを加えても26%の減量となり、目標の20%を大きく超える減量となりました。
皆さまのご協力に感謝いたします。これからも身近な工夫で、「ごみ減量生活」を定着させましょう。

みどり園で扱う燃えるごみ量等の推移



ごみ分別 今一度、点検を!



「容器包装プラ」の分別を今一度見直してください。同じプラスチックのごみであっても、それがどんな用途であったのかによって、「容器包装プラ」か「燃えるごみ」かに分かります。
例えば、外装フィルムに包まれたストローはどのように分別するのでしょうか。外装フィルムもストローも素材はプラスチックです。でも、分別は異なります。外装フィルムはストローを包んでいた容器包装なので「容器包装プラ」です。ストローは商品そのもので容器包装には該当しませんので「燃えるごみ」の扱いとなります。少々ややこしいですが、分別のポイントはそのプラスチックが容器包装類に該当するかどうかです。
昨年、容器包装プラに1割を超える不適物が混じていました。不適物の混入はリサイクルの妨げになります。分別方法は次ページに詳しく掲載していますので、ご確認ください。